

✚ ご挨拶



冬の気配がひたひたと・・・時雨模様が多くなってきました。お風邪を召していらっしゃる方もチラホラ。こんな時こそ早めの就寝を心掛けたいものですね。「休息もチカラなり」を実感しているこの頃です。ですが、もう12月！何となく気ぜわしくなりがちですが、皆様くれぐれもお身体を大切にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

✚ ものづくり

現在TV視聴率No.1の『下町ロケット』・・・皆様もよくご存知の池井戸潤先生が直木賞を受賞された作品を原作としています。下町の工場が大企業をものともせず立ち向かう痛快ドラマ。折しも半世紀ぶりに製作された、国産小型ジェット旅客機「MRJ」の話題も重なって人気に拍車がかかっています。MRJには富山の県内企業からも部品供給をしたと話題になっており、まるでドラマさながらの様相です。日本の中小企業の【ものづくり】に対する底力を感じ、熱い思いが湧き上がってきます。

歯科医療の分野でも、コンピューター制御で作る「被せ物や詰め物」が実用化されてきました。切削した歯を3D光学スキャンで計測し、ミリングマシンで削り出します。工業的なものと捉えられていたCAD/CAMが、既に口の中にも応用されているのです。

しかし、「入れ歯」となると・・・話は違ってきます。前述の「被せ物や詰め物」は、【歯という硬い組織】を修復するための物です。いわば計測しやすいといえます。それに比べて「入れ歯」は、【粘膜という軟らかい組織】：歯ぐきの上に、人工物を入れなければなりません。

【軟らかくて、しかも可動する組織】である粘膜を、どうやって計測するのか？
現在CTやMRIなどの画像診断による3次元データ解析や、光学スキャナーの

精度を高めて「入れ歯」を作製できないか、研究レベルの段階です。なぜなら、どれもある一時点での粘膜の「断片」だけを、データ化することしかできないからです。

ヨーロッパの歯科医療機器メーカーが、先日コンピューターによる義歯作製モデルを発表しました（日本では未認可）。資料を見る限り、残念ながら臨床レベルに達しているとはいえないものと判断していますが、そう遠くない未来に、簡単に「入れ歯」製作ができる時代がやってくることでしょう。もしかしたら大量生産できるお皿のような感覚で、「日替わり義歯」なんてことも・・・(@_@)？！

一方で、現在でもCAD/CAM冠の完成度は、術者の「手仕事」に大きく左右されています。未熟者によるトラブルも頻発していると聞き及びます。あくまでも医療用具は人に対するものであり、「咬み合わせ」という日々変化するものに対応できるのは、それに精通した医療者でしかありません。

大量生産できるものと、そうでないもの・・・何に価値を求めるのか、それは人それぞれです。私自身はコンピューターによる「お手軽義歯？」も、将来的には普及してくるだろうと考えています。それでも、その対極に位置するものとして、「フルオーダーの手作り義歯」がこれからも必要とされるに違いない、と信じているのです。

✚ お知らせ



＊平成27年12月22日（火）～24日（木）まで、院内改装のため休診致します。

《年末年始休暇のお知らせ》

平成27年12月29日（火）～平成28年1月5日（火）まで休診致します。どうぞよろしくお願い致します。